

◆ 科目別（掲載項目を限定しておりますので、最新情報とあわせてシラバスも必ずご確認ください）

No. 1

授業番号	A0110	科目種別	基礎科目群
授業科目	基礎ゼミナール		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GAA-101-3: 全学共通	担当教員	松田 真希子
	科目	開講期	前期
授業方針・テーマ	<p>テーマ【日本語教育と DEI】</p> <p>日頃、疑うことのない教科書や街の中の看板や標識にはさまざまな思想・信条が前提として記述されており、それらに繰り返し接することで、知らず知らずのうちに、それらの前提を受け入れ、社会構造に埋め込まれる危険性がある。日本語教育も同様である。そこには、ジェンダーや外国人に対する意識などについてさまざまな規範性が埋め込まれている。</p> <p>本基礎ゼミでは、言語景観や日本語教科書の分析を通して、日本語教育という分野に対する理解を深めるとともに、日本語社会の「ダイバーシティ（多様性）」「エクイティ（公平性）」「インクルージョン（包括性）」について批判的に考えることを目指す。</p>		
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	<p>(1) 日本語教科書分析をとおして、日本語教育についての理解を深めることができる</p> <p>(2) 批判的談話分析やテキストマイニング等、言語分析方法についての技術を身につけることができる</p> <p>(3) 日本語教育についての論文購読を通じて、論文を読み、レジュメをつくる経験を積むことができる</p> <p>(4) 日本やアメリカの言語景観、日本語教科書を DEI の観点から分析し、課題と改善提案を発表することで、口頭発表の練習を行うことができる</p> <p>(5) 発表内容を論文にすることでアカデミックライティングのスキルを高めることができる</p>		

No. 2

授業番号	A0759	科目種別	基礎科目群
授業科目	基礎ゼミナール		
科目ナンバリング (2018年度以降入学生対象)	GAA-101-3:全学共通	担当教員	金野 達也
	科目	開講期	前期
授業方針・テーマ	<p>テーマ【自分や他者にとって大事な活動（作業）について考える】</p> <p>加齢・病気・障害・人生の転換期によって、自分にとって大事な活動（作業）ができなくなることがある。リハビリテーションの現場では、その人にとって大事な活動（作業）が再びできるように支援する。その人にとって大事な活動（作業）は、多種多様であり、同じ活動であったとしても、その人によって作業の形態・意味・機能が異なる。本ゼミナールでは、自分や他者がどのような作業をし、その作業にどのような意味や機能があるかを検討していきます。また、地域で暮らす高齢者・様々な障害をかかえている人（脳血管障害・脊髄損傷・関節リウマチ・大腿骨頸部骨折・脊椎圧迫骨折・地域在住高齢者など）の立場になり、どのような作業に困難を抱えているか、作業を困難にさせている原因やその対策などについて、グループごとにテーマを決め、調査・検討する。お互いの発表を聞き討論することを通して、理解を深めていく。</p>		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら身の回りの事象に関心を持ち、自ら行動し、学び、考え、見出すという能動的な学習姿勢を身につける。(能動的学修姿勢) ・自ら主体的に問題意識を持ち、テーマを設定することができる(情報活用能力)。 ・テーマに必要な資料を収集し、議論・検討・考察し、その課題について思考・解決する能力を身につける(情報活用能力)。 ・グループワークや討論を通して、コミュニケーション能力や論理的な思考を身につける(コミュニケーション能力)。 ・発表を通してプレゼンテーション能力を養う(コミュニケーション能力)。 		

No. 3

授業番号	A0760	科目種別	基礎科目群
授業科目	基礎ゼミナール		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GAA-101-3: 全学共通	担当教員	宮寺 亮輔
	科目	開講期	前期
授業方針・テーマ	<p>テーマ【高齢者の ICT 活用の可能性を考える】</p> <p>高齢化社会が進む中で労働力不足、医療人材不足、社会保障費の増大など高齢者を取り巻く深刻な課題が様々ある。その課題解決の1つとして、高齢者の情報通信技術（Information and Cominication Technology : ICT）の活用が、医療・介護分野のみでなく、予防・健康増進分野でも注目を集めている。この ICT 活用が進めば、物理的距離に左右されない高齢者の社会参加の継続も期待できると考える。本ゼミナールでは、高齢者の ICT 活用を取り巻く環境や課題、その可能性について興味関心を寄せるテーマを設定し、調査・検討を行う。また、お互いの発表を聞き討論することを通して、理解を深めていく。</p>		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら、社会や身の回りの事象に関心を持ち、学び、考え、行動するという能動的学習の習慣を身につける（能動的学修姿勢）。 ・グループ討論や共同調査を通じて、自分の考えを表現する、相手の考えや気持ちを読み解く、良好な人間関係を築くなどの力を身につける（コミュニケーション能力） ・根拠のある情報（他者から得た情報、論文、テキストなど）を見極め、他者との情報交換に必要な資料をまとめる技術を身につける（情報活用能力）。 		

No. 4

授業番号	Z0090	科目種別	キャリア教育
授業科目	国際交流概論 I		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GAG-106-1:全学共通	担当教員	嶋内 佐絵
	科目/XGE-131-1:国際副専攻コース	開講期	前期
授業方針・テーマ	<p>グローバル化の急速に進む現代社会において、専門的能力に優れ、各文化独特の価値観に縛られない柔軟な感性と判断力を備えたグローバルな人材が求められている。本学では海外の大学との協定に基づく交換留学や短期語学研修プログラム等を提供しており、留学や海外での滞在を希望する学生も年々増加してきた。学生時代の海外経験は、異文化にどう対処するかを学び将来のグローバルなビジョンを形成する格好の機会であるが、そのためには異文化理解や適応、危機管理に対する十分な準備は欠かせない。また一方で、日本国内の多文化共生についての理解を深めることも、グローバル社会に生きる市民の資質として極めて重要であろう。この授業では、主として東京都立大学からの留学を志す学生や、将来的に世界の舞台で活躍したい学生を対象とし、異文化間で発生する問題やその体系的な理解、留学や将来的なキャリア形成のための知識やスキルの習得を目指す。</p>		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル化する日本および国際社会の理解 ・ 留学や海外経験における異文化能力やコミュニケーションスキルの獲得 ・ 留学をキャリア形成につなげる視点の形成 		

No. 5

授業番号	X0126	科目種別	教養／文化・芸術・歴史
授業科目	日本語と社会と文化		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GBB-124-1:全学共通	担当教員	松田 真希子
	科目	開講期	前期
授業方針・テーマ	日本・日本語の境界に目を向けることにより、日本および世界における日本語の社会と文化を多層的に理解できるようになること、そして自分自身の言語的文化的多様性に対する意識化を進めることをめざす。また意識化を促す上で有効な理論についても導入する。		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本および世界における日本語の社会と文化について多層的に理解できるようになる。 「日本語の社会と文化」についての理解を促す上で有効な理論（言語政策、継承語教育、日系移民文化、メトロリンガリズム、トランスランゲージング等）について、基礎的な知識を得ることができる。		

No. 6

授業番号	X0154	科目種別	教養／生命・人間・健康
授業科目	臨床心理学概論（生活の心理学）		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GBC-101-1:全学共通	担当教員	松岡 努
	科目	開講期	前期
授業方針・テーマ	人は誰しも心を持ち、心を働かせながら社会の中でほどよく適応していくが、ときに心がうまく機能しなくなることがある。そのような状態を理解するための理論や解決するための技法を探求する学術的営みが臨床心理学である。臨床心理学は基礎となる心理学の他領域や近接の学問領域など広範かつ深い知識が必要であるが、本講義ではその入門として、臨床心理学の成り立ちや代表的な理論について概論的な説明を行う。とはいえ、単なる知的な理解に終わらないために、毎回のリアクションペーパーなどを通じて、自らの体験に照らしつつ、積極的に学びを生かしていく機会を設ける予定である。		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、臨床心理学の歴史や特徴、人のパーソナリティや心の発達、支援の対象となる問題、代表的な理論と技法などについての基礎的な知識を習得することが目的であり、これらの基礎的な知識についておおよそ説明できるようになるのが目標である。また、本講義は大学（学部）における公認心理師受験資格を得るために必要な科目となっている。		

No. 7

授業番号	Y0013	科目種別	基盤／人文科学領域
授業科目	人間・文化・社会		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCA-101-1:全学共通	担当教員	西山 雄二 ほか
	科目	開講期	前期
授業方針・テーマ	<p>本講義は人文社会学部の各教室が提供するオムニバス形式の講義です。ひとつの総合テーマについて、コーディネーター役教員の司会にそって、各学問分野の教員が各1回を担当します。「オムニバス (omnibus)」とは元来、「たくさんの人間が乗った乗合馬車」の意味ですが、本講義では、ひとつの目的地(テーマ)を目指す複数の講師から多面的なものの見方を学び、人文社会学系の知識を全方位的に開くことができるでしょう。もちろん、他学部の学生が受講しても有益な内容です。</p> <p>総合テーマ「動物／人間」</p> <p>「人間とは何か?」という問いに対して、これまでしばしば動物との差異が援用されてきた。「人間は政治的動物である」「人間は理性をもつ」「人間は言語を用いるが、動物は単なるシグナルを発するだけ」「人間だけが道具を製作し、使用する」「人間は社会を構築するが、動物は本能的に群れているだけ」「人間だけが道徳を洗練させる」「人間は死を経験し概念化するが、動物は息絶えるだけ」等々。人間はどの程度まで動物なのか、あるいは、いかなる点で人間は動物とは決定的に異なるのか。こうした問いによって自然と文化の境界が浮き彫りになり、また逆にその謎が深まるだろう。「動物／人間」という主題は、私たちの知の全領域——学生のみなさんが大学で学ぶ専門領域全般——を貫く重要な主題である。「動物／人間」をめぐるさまざまな問題系をめぐって、人文社会学系の各分野の教員が順番にオムニバス形式で講義をおこなう。</p>		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人間の普遍的な主題である「動物／人間」をめぐって、人文社会学部の各学問分野ならではの発想、分析方法、思考スタイルを具体的に学びつつ、「動物／人間」に関する多角的な学識を身につけます。		

No. 8

授業番号	Y0031	科目種別	基盤／人文科学領域
授業科目	社会学A文		
科目ナンバリング (2018年度以降入学生対象)	GCA-103-1:全学共通	担当教員	中川 薫
	科目	開講期	前期
授業方針・テーマ	<p>入門的授業として、社会学における基礎知識を習得する。なお、講義スケジュールの内容・順序等が変更される可能性があります。</p> <p>※授業の連絡等は kibaco を通して行われます。</p>		
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	<p>社会科学視点を獲得し、これを具体的な現実の諸問題の理解に活用できるようになることが目標である。</p>		
<参考> 授業計画・内容	<p>予定している内容は以下の通り</p> <p>第1回 社会学へようこそ</p> <p>第2回 ヒトが人になるということー社会化</p> <p>第3回 模擬監獄の人間模様ー地位と役割</p> <p>第4回 私はかわいいのかかわいくないのかー準拠集団</p> <p>第5回 非言語的コミュニケーションー社会的相互行為(1)</p> <p>第6回 冷淡な傍観者ー社会的相互行為(2)</p> <p>第7回 実験室の中のナチスー社会的相互行為(3)</p> <p>第8回 逸脱とラベリング</p> <p>第9回 社会が作った男と女ージェンダー</p> <p>第10回 家族と社会</p> <p>第11回 豊かさの中の自殺</p> <p>第12回 現代社会の成功物語ー社会階層、社会移動</p> <p>第13回 健康の不平等</p> <p>第14回 社会学の研究方法</p> <p>第15回 まとめ</p>		

No. 9

授業番号	Y0005	科目種別	基盤／人文科学領域
授業科目	文化人類学 A		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCA-105-1:全学共通 科目/XGE-134-1:国 際副専攻コース	担当教員	綾部 真雄
		開講期	前期
授業方針・テーマ	<p>文化人類学とは、世界各地の人々の文化や思考様式に対する「共感力」と、地域的な事実や一見特殊に思える現象から出発してより普遍的な人類像を確立するための力、すなわち「遠心的想像力」を養うための学問である。我々はいついつい、自文化にとっての「あたりまえ」が異文化にとっての「あたりまえ」とは異なるという単純な事実を忘れがちだが、その忘却は時に、異なる文化間、国家間に横たわる大きな確執や偏見を助長する。それを避けるためには、やはり「共感力」と「遠心的想像力」が必要である。</p> <p>本講義では、こうした観点から出発し、世界各地のローカルな文化や歴史的事実を紹介しながら、それぞれのトピックの中に「人間」という存在をより包括的にとらえなおすための様々なヒントを見出そうとする。それはそのまま、長期のフィールドワークに基づいて執筆されたエスノグラフィ（民族誌）や文化人類学的知見の紹介であると同時に、初学者向けの文化人類学の概説ともなる。</p> <p>ただし、文化人類学は「失われた文化／失われつつある文化」のノスタルジックな探求ではない。文化人類学は、常に人類の「今」を切り取るための視点をヴァージョンアップし続けて今に至る。</p>		
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地のローカルなものの見方への共感力を身につける ・自己の視点を相対化する力を身につける ・様々な民族誌的事例の学習を通じて、世界の人々の暮らしぶりや価値感の多様性を理解する ・リアクション・ペーパーの執筆とその講評を通じて、論理運用能力と分析力を身につける ・各種映像の視聴を通じて、知識とイメージを有機的にリンクさせる 		

No. 10

授業番号	Y0046	科目種別	基盤／人文科学領域
授業科目	社会福祉学		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCA-107-1:全学共通 科目	担当教員	坏 洋一
		開講期	前期
授業方針・テーマ	社会福祉学への入門講義として、社会福祉の全体像に触れつつ、学問としての社会福祉学の基礎を学ぶ。		
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉・社会保障の基礎知識を身につけることができる。 2 一般社会の支配的な価値観や観念を相対化することができる。 3 公正な社会を追求するための分析力と構想力の基礎を修得できる。 		

No. 11

授業番号	Y0065	科目種別	基盤／人文科学領域
授業科目	教育学		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCA-110-1：全学共通科	担当教員	河合 隆平
	目	開講期	前期
授業方針・テーマ	「教育とはなにか？」と問われたら、答える人の数だけ「教育」が存在するだろう。それほど教育の成り立ちは当たり前のようにみえるけれども、じつは特殊な営みであり複雑な仕組みである。本講義では、とりわけ障害のある場合を念頭におき、おもに教師によって営まれる教育実践に依拠しながら、教育について学問的かつ実践的に考える。		
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の基礎的な概念と知識を身につける。 ・教育をめぐる事象を科学的に捉え、考察する。 ・教育問題に対して知的且つ実践的な関心をもち、自分なりの問いを立てる。 		

No. 12

授業番号	X0023	科目種別	教養／文化・芸術・歴史
授業科目	フランス語圏の文化		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GBB-120-1：全学共通	担当教員	西山 雄二
	科目	開講期	後期
授業方針・テーマ	フランスの社会・文化・歴史などを概観できる、フランスの多様な世界への道案内講義。		
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	本講義では、フランスに関する多様なテーマを取りあげながら、この国が培ってきた論理性、批評性、社交性、前衛性といった特質を浮き彫りにします。ただし、本講義の目的は、受講生にフランスの多彩な「情報を伝達」し、フランスの良否を「紹介」することではありません。受講生がフランスの諸事象を考察し理解することで、社会的・文化的・歴史的な比較と分析を通じて、私たちが生きている日本の状況を新しい視点からとらえ直す能力を磨くことが目的です。グローバル化の潮流のなかでアングロ＝サクソンの価値観が日本社会のいたるところに浸透し切っている現在、そうした価値観とは一線を画するフランスから、新たな社会的・文化的・歴史的な道筋を垣間見ることができるといえるでしょう。フランスに限らず、西欧文化一般に興味のある学生、また、西欧文化に関心がなくとも日本社会について考え直したい学生が受講されることを期待します。		

No. 13

授業番号	X0073	科目種別	教養 / 都市・社会・環境
授業科目	生活と福祉		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GBA-103-1：全学共通科 目	担当教員	堀口 涼子
		開講期	後期
授業方針・テーマ	日本における様々な社会問題を、社会福祉の観点から取り上げながら、社会福祉を他人事ではなく自分事として身近に捉え、社会福祉のあり方について考える。		
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の生涯発達のなかで起こりうる社会問題を、家族、地域、医療、福祉など、多様な観点から理解できるようになる（総合的問題思考力）。 ・社会問題に対して、データから客観的に、あるいは自分の経験をもとに主体的にとらえ、その解決方法を考える姿勢を身に着けることができるようになる（論理的思考能力、社会的責任の自覚、課題解決志向能力）。 ・自分とは異なる境遇の人々の立場に立って考えられるようになる（異なる社会への理解）。 		

No. 14

授業番号	Y0061	科目種別	基盤／人文科学領域
授業科目	社会学B理		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCA-104-1：全学共通 科目	担当教員	堀内 進之介
		開講期	後期
授業方針・テーマ	<p>私たちは日々、他者との関わりの中で生活しています。家族、友人、同僚……。人はつながりの中に生きています。そんな人々の営みを理解するのが社会学です。社会学は、人が集まるとき何が起こるのか、人と人との間にはどんな力が働くのかを明らかにします。</p> <p>この授業では、みなさんが普段何気なく送っている生活そのものを研究対象とします。具体的には、家庭、学校、職場など、みなさんが実際に生きる場所で起こる出来事や、現代社会の様々な文化的な営みから社会の仕組みを学びます。そこから、人が社会の中でどのように行動し、考え方や生き方が決まってくるのかを探ります。</p>		
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	自分が置かれた環境とどう向き合うか、それぞれの立場を理解することの大切さを知り、社会を見る目を養う。		

No. 15

授業番号	Y0066	科目種別	基盤／人文科学領域
授業科目	教育学		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCA-110-1:全学共通	担当教員	前田 晶子
	科目	開講期	後期
授業方針・テーマ	本講義では、教育の理念や現代的課題について学習する。授業は、「教育とは何か(理念)」「教育にはどのような考え方があるか(思想)」「教育はどのように組織されてきたか(学校教育)」の3つの柱で構成される。これらの学習を通じて、社会において教育が果たす役割を理解し、学校教育を取り巻く現代的課題に対する視点を得ることを目指す。また、各回のワークに取り組むことで、自身の教育経験を相対化する機会とする。		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の到達目標は以下の点である。 (1) 人間形成一般のなかで、「教育概念」の固有性について理解する。 (2) 「教育思想」の歴史的背景について理解する。 (3) 教育改革をめぐる国内的・世界的動向を理解する。 		

No. 16

授業番号	Y0054	科目種別	基盤／社会科学領域
授業科目	政治理論入門		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCB-104-1:全学共通	担当教員	大澤 麦
	科目	開講期	後期
授業方針・テーマ	<p>私たちの社会生活を支えるリベラル・デモクラシーの基本前提には、自由で平等な人々が営む生の多様性への尊重がある。私たちが私的利益と公益性との衝突をしばしば経験し、また異なる価値観や文化的背景を持つ人々との共生の問題をいたるところで突きつけられるのは、まさにこのためである。</p> <p>この講義では、政治理論への誘いとして、こうした問題を現代政治の規範にかかわる「自由」「正義」「公共性」「寛容」という4つの観点から検討してみたい。</p>		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者には、講義を通じて、「政治」の領域に発生する諸問題に潜む思想的契機を発見する眼を養ってほしい。あわせて、政治理論とそれが生まれた歴史的文脈との関係を理解することを求めたい。以上のことを通じて、リベラル・デモクラシーをひとつの政治文化と見る視点を持ち、その特質と問題点について各人の理解を深めることをとおして、多角的・総合的な視点から政治を論理的に考える力を身につけてもらいたい。		

No. 17

授業番号	Y0069	科目種別	基盤／健康科学領域
授業科目	基本動作と移動障害		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCD-103-1:全学共通	担当教員	橋本 美芽
	科目	開講期	後期
授業方針・テーマ	この講義では、人間の基本動作と移動動作、移動障がい者（移動に障害を有する方々）の障害別に特徴的な移動動作を紹介します。運動学で必要とされる、身体の動きを観察する知識の基礎を習得すること、及びその他の移動障がい者として視覚障がい者の歩行を理解することを目標としています。運動学の入門的位置付けの講義です。初歩的な用語の解説から始め理解しやすく解説します。		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では、起居動作（寝る・起き上がる・座る・立ち上がる・立つ）と歩行（歩く）という人間の基本的な動作について、身体の重心の移動を中心に理解することから始め、身体の障害や運動能力の低下による移動の困難さ、歩行を補助する杖の使用、歩行に替わる移動方法である車椅子による移動、また、視覚障がい者の移動を取り上げ、多様な移動方法の特徴について理解することができます。ボランティア活動などで役立つ介助の基礎的な知識についても紹介します。		

No. 18

授業番号	Y0070	科目種別	基盤／健康科学領域
授業科目	基本動作と移動障害		
科目ナンバリング (2018 年度以降入学生対象)	GCD-103-1:全学共通	担当教員	橋本 美芽
	科目	開講期	後期
授業方針・テーマ	この講義では、人間の基本動作と移動動作、移動障がい者（移動に障害を有する方々）の障害別に特徴的な移動動作を紹介します。運動学で必要とされる、身体の動きを観察する知識の基礎を習得すること、及びその他の移動障がい者として視覚障がい者の歩行を理解することを目標としています。健康福祉学部の運動学の入門的位置付けの講義です。初歩的な用語の解説から始め理解しやすく解説します。		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では、起居動作（寝る・起き上がる・座る・立ち上がる・立つ）と歩行（歩く）という人間の基本的な動作について、身体の重心の移動を中心に理解することから始め、身体の障害や運動能力の低下による移動の困難さ、歩行を補助する杖の使用、歩行に替わる移動方法である車いすによる移動、また、視覚障がい者の移動を取り上げ、多様な移動方法の特徴について理解することができます。ボランティア活動などで役立つ介助の基礎的な知識についても紹介します。		